



No. 7, January 2019

1月、晴れ渡る乾期の空の下、エイヤワディー地域を車で走ると収穫した籾を天日で乾燥している風景を各地で見ることが出来ます。コンバインハーベスターの急速な普及によるものでしょうか、数年前までは何処に行っても脱穀機のエンジン音が響き、乾燥も個人の農家で小規模に行われていました。ところが今はその音も聞こえず、コンバインによって収穫された大量の籾が広大な天日乾燥場に広がっています。機械化は農村のポストハーベスト作業体系まで一変させてしまいました。

**普及員技術研修とCS生産モニタリング**：2018年に各地で4～5回に亘って実施した普及員および種子農場職員への研修成果をCSの品質とRSからの生産効率性に基づき推定するためのモニタリングを実施しています。一方、エイヤワディー地域では乾期のCS生産及びコメの生産が始まっています。（写真：左から、作業ピークを迎えているYGN種子ラボの生産物審査、DOA種子農場が生産したRS（原種）とRS証明票（ブルータグ）、JICA本部・瀬川担当職員も同行した乾期CS生産圃場でのモニタリング）



**精米デモンストレーション**：CSによる収益向上を実証することを目的として精米業者の協力を得て、ヒンタダ、カンジダウン、ミヤウンミヤ及びピャポン郡でCSから栽培された籾米を使った精米デモンストレーションを行いました。各会場では籾米2.0トンから1.1トン前後の完全米（通常は0.9トン程度）が精米され、赤米も殆ど無く、精米歩留の高さ（66～70%）に、関係者は驚きの声を上げていました。（写真：左から、ミヤウンミヤ精米所にて意見交換、ピャポン精米所にて専門家説明、ヒンタダ精米所にて整粒歩合計算）



**種子選別機の据付けと研修**：昨年12月中旬から開始した種子選別機3台の据付けと、2012年に先行プロジェクトが供与した同型機6台の修理・調整が無事終了しました。更に、これら機材の効果的な利用を図るためマニュアルを作成し、カンジダウン郡で各郡の全ての種子選別機運転管理者を対象とした運転及び維持・管理の研修を行いました。（写真：左から、専門家による講義、メーカー据付け技師による運転実習、メーカー技師による維持・管理実習）



エイヤワディーではポンプ灌漑による乾期作が、シュエポーでも用水路のリハビリが終わり次第乾期作が始まります。農家に休みはありません。HP (<https://www.jica.go.jp/project/myanmar/029/index.html>) も開設しましたのでご覧ください。（編集委）